

Maple 13 における互換性

下記は Maple 12 から Maple 13 にアップグレードするユーザーに影響がある互換性に関する簡潔な説明です。

チルダ記号 (~) で始まる名前の使用

- [Element-wise operators](#) はチルダ (~) 文字を使います。「~」はバッククォートで名前を囲まなくても名前の先頭文字として使用できるため、要素単位で働く演算子と名前との間で衝突が起きる危険性があります。チルダ文字で始まる名前の最初と後続の標準的な演算子シンボルとの間、つまり演算子とチルダとの間に一定の空白があることを確認する必要があります。たとえば、これまでのバージョンでは $a^* \sim b$ という式は a 倍の $\sim b$ という意味でした。本リリースでは、 a と b を要素単位で乗算する $a^* \sim b$ の意味になります。チルダの付いた b を名前として使用するには、 $a^* \sim b$ のように、乗算シンボルの後に空白が必要です。

Slode パッケージ

- [Slode](#) パッケージコマンドの呼び出し列と一部のコマンドの出力形式が変更されました。本リリースでは、`keyword=value` という形式でオプションの引数を入力し、任意の順序でオプションを追加できるようになりました。今リリースでは従来の呼び出し列も引き続きサポートされます (マニュアル対応はありません)。従来の呼び出し列を使用した場合は、古い形式で出力が返されます。

エラー制御における数値 ODE

- `dsolve` の数値解におけるエラー制御メカニズムが改良され、添え字が 1 つの変数 (つまり微分不可能な変数) のエラー制御が可能になりました。このため、このような変数で第 1 種不連続が発生する問題では、解が特異であることを示すエラーメッセージが表示されて処理が中断する場合があります。この問題を解くための 3 種類の手法については、例題ワークシート [examples,dsolve_numeric_NewErrorControl](#) の説明を参照してください。

ソートリスト

- データタイプが混在したリストや配列では、これまでは `sort()` を呼び出し、オブジェクトとマシンアドレス順に配置されたその要素を返す手法で処理していました。この手法は非常に効率的な一方で、セッション間で予期しない結果になる場合があります。新しいデフォルトのソート順序は、結果を予期しやすい確定的なものに変更されました。アドレスを使用したソートを継続するには、ソートコマンドで新オプションの 'address' を認識します。詳細については、[sort](#) を参照してください。

evalhf(Digits)

- 本リリースから、ハードウェアの浮動小数点の特殊関数の新バージョンが Maple の Windows 版に導入されました。このアルゴリズムでは、新 Maple で小数点以下 15 桁までが保証されるように精度が向上しています。また、このアルゴリズムは [evalhf\(Digits\)](#) の新設定に適用済みです。この 15 という新しい設定数値はすべてのプラットフォームで共通です。

参照

[Index of New Maple 13 Features](#), [ワークシート互換性の問題](#)